

ひらた まさのり  
平田 雅則

## 労働組合を強くしよう!!

●情報労連・副中央執行委員長  
(NTT労組中央本部・事務局長)

2016年(申年)のスタートにあたり、会員組織の皆様方にとって、実り多き1年となりますことを心からご祈念申し上げます。

さて、産別・単組の労働組合役員の皆様方は、昨年10月の連合第14回定期大会における「2016～2017年度運動方針」の「問題提起」をどう捉えられたのでしょうか。冒頭に綴られた本提起は、①自らを問う、「連合」はどのような存在になっているか、②頼られる存在と映っているのか?、③次代を担う将来世代にとってどのような存在か?——等であり、一部報道では自己批判とも揶揄されましたが、長年組合役員を続けてきた私にとっては、「えっ」と驚くとともに斬新にも映りました。他方、問題提起としては共感できるものの、「その実践・実現は非常に難しい」と率直に感じている役員の方も多くいたのではないのでしょうか。しかし、「難しい…」と思えば、その実現が遠のくばかりで、あえて前向きに捉え、「どう取り組めば実現に近づくのか」を考えることがいま何よりも重要であり、今後そのような決意で運動に取り組んでいきたいと思った次第です。

そこで本稿では、「組合組織を強くしたい」という思いの一端を述べたいと思います。

まず「組織強化」に向けた現状認識です。どの組織においても創意・工夫した活動に取り組んでいますが、現実には、①組合の組織率、②組合活動への参加率、③多様化している組

合員ニーズの把握による具体的活動の展開——などの点で、現状の組合組織が抱える課題や悩みは、多くの点で共通しているのではないのでしょうか。組織の現状を連合風に“問題提起”すれば、①私たちの組合はどれくらい組合員から『信頼』されているか、②組合員がどれくらい組合活動に参加・参画しているか(次代を担う将来世代に組合活動がどう映っているのか)、③非正規組合員・社員から頼られる存在になり得ているか——等ではないのでしょうか。したがって、まず現状の組織実態をつぶさに把握・分析するところから始めなければならないと考えます。

私たちが昨年末までに行なった各組織の中堅・リーダ層の研修では、「各組織が抱える課題」について、①組合員ニーズおよび雇用形態の多様化に対応できていない活動となっている、②組織の大規模化や広域化により組合活動への参加・参画が減少している、③組合員とのタイムリーな情報共有が図れていない、④組合員からの「信頼」が低下してきている——等の課題が出されました。

また、昨年、労働調査協議会に取りまとめでいただいた「第4回次代のユニオンリーダ一調査」結果(分会以上のほぼ全役員である3,529人が回答)も分析し、今後の取り組みに活かすとともに、課題解決に向けた時間軸を短期・中期・長期と設定し、具体的取り組みを検討・実践していきたいと考えています。その際、重要なのが、「強い労働組合とは何



か」、「どんな労働組合づくりをめざすのか」という方向感です。私は、1つは「組合員全員が活動に参加・参画している組織」であり、2つは「組合員から『信頼』されている組織」、そして3つは「この組合活動に参加したいと思われる魅力ある組織」だと常々考えており、そこをしっかりと合わせることが肝要と思っています。そのためには、一緒に取り組む組合役員（理解者）との認識合わせが先決で、いま各組織のリーダー層の皆さんと議論しているところです。

こうした組織づくりとともに、次代を創るために次の具体的活動等にも取り組んでいきたいと考えています。

1つは、組合員に近い分会組織における班体制等の確立および充実・強化です。

班長（職場委員）は、組合員の一番身近な接点であり、日常的に職場のコミュニケーション活動を通じて、組合員の反応や意見等を分会・部会へ直言する極めて重要な役割を担っている人財です。この班長をきめ細かく配置することによって、組合員とのタイムリーな情報共有を図りたいと考えています。

2つは、若年層組合員に対する教育活動「ユースコース（2年目研修）」の充実です。

会社入社後に即、組合加入した若年層組合員は、組合に対するさまざまな印象（多くはネガティブイメージ）を持つケースが多く、この時期に組合活動に対する理解と協力者になってもらうよう働きかけることが、今後の

活動展開においてカギを握ります。したがって、受講者全員から理解と共感が得られる参加型内容を追求し、事後の組合活動への参加・参画につながる研修となるよう、取り組んでいく必要があります。

3つは、組合役員の人財育成の強化です。

前述した強い組織づくりを進めるには、魅力ある人財づくりが必要と考えています。役員個々が、これまでの経験で培った「ヒューマンスキル」「コミュニケーションスキル」「マネジメントスキル」「プレゼンテーションスキル」をさらに向上させるなど、魅力ある人財づくりに取り組んでいきたいと思っています。

結びに、NTT労働組合は、昨年7月の第18回定期全国大会で向こう2年間を「次代を創る挑戦の期間」と位置づけ、『想像／創造と信頼～エンパワーメント～』をキーワードに『みんなで決めて・みんなで行動する』運動の実践をめざす「2015～16年度中期運動方針」を決定しました。改めて、この方針の語句に込められた真意を肝に銘じ、中央本部、企業本部、総支部・分会、部会、班（職場委員）のすべての役員が同じ課題認識・方向感を共有し、活動を進めていけるよう、「組合組織を強くしていく」という“夢”をこれからも追いかけていきたいと思います。